



## 東日本大震災を経験して

トーアエイヨー株式会社  
代表取締役社長 高橋 敦男



私どもの会社は、2014年に世界遺産に登録された富岡製糸場の最後の民間オーナーである片倉工業(株)が行っていた、蚕蛹からビタミンB2を抽出する研究を承継するかたちで、1943年、福島県福島市に工場を竣工し創業を開始しました。扱った成分がビタミンB2ということで“栄養”という文字を入れ、東亜栄養化学工業(株)という社名になりました。蚕蛹の高度利用研究から生まれた「ビスラーゼ」、それに続く「フラビタン」シリーズを世に送り、ビタミンB2製剤の国内トップメーカーとなりました。さらに1981年に持続性虚血性心疾患治療薬「フランドル」を発売し、循環器領域への参入をきっかけに社名を現在のトーアエイヨー(株)へ変更し、1984年には、日本で初めての全身用経皮吸収型虚血性心疾患治療薬「フランドルテープ」を発売。その後も狭心症治療用硝酸薬、抗不整脈薬、心不全治療薬等を発売し、2013年には世界初の経皮吸収型β1遮断薬「ビソノテープ」を発売しました。本格的な高齢化社会を迎えて急増する循環器疾患の患者様に必要とされる医薬品を届けることが、当社の使命と考えております。

さて、当社は、福島県福島市と宮城県大和町に工場があり、東日本大震災では両工場とも被災しました。特に、研究施設を併設した福島工場の被害が大きく、さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故も重なり、震災直後は、操業再開の目途が立たない状況でした。当社は、循環器領域という生命に直結する医薬品を製造・販売していることから、製品の安定供給が社会的使命であるという強い意志のもと、生産関連設備の復旧を最優先に取り組みました。まず、被害状況を把握した上で、電気、空調、給排水、建屋の復旧に係わる業者を確保する必要がありましたが、震災直後は、業者との連絡手段がなく、当社の設備担当社員が、素早く手分けして業者の営業所に直接出向き復旧の支援を依頼しました。ライフラインの復旧が不十分な中、長年お付き合いいただいている業者の皆さんには、医薬品の安定供給の重要性をご理解いただき、優先的に当社の復旧作業を行っていただけました。当社は、社員による復旧作業を行うとともに、工事車両への燃料の供給(地元のガソリンスタンドのご厚意で融通いただく)、工事作業員の皆さんへの食事及び宿泊施設の提供(構内にある研修用の宿泊施設を提供し、寝具は近隣にある飯坂温泉の旅



館のご厚意で貸与いただいた)など、復旧作業の遂行をサポートしました。さらに、原発事故に対する社員、作業員の安全確保、製品への影響に対するユーザーの不安に応えられるように、建屋内、屋外、水等の放射線測定を行い、影響がないことを確認し、安心、安全を担保しました。一方、倉庫に保管された製品の被害が比較的少なかったことも幸いし、3月15日から製品の出荷を再開することができました。当社では、対策本部を設置して、被災状況の把握や社員の安否確認を行うとともに、震災翌日から、全国各支店にも依頼して食料、生活用品等の支援物資を調達し、製品出荷のトラックの戻り便に支援物資を積載し、福島、仙台の両工場、仙台支店等の被災事業所へと届けていただきました。

震災直後は、いつ復旧できるか全く判らない状況でしたが、自らも被災者であった現場の社員の奮闘、本支店の支援、地元業者をはじめ関係者(中には福島工場周辺に住むOBの方もいらっしゃいました。)の皆様のご協力を得て、約3週間で工場を仮復旧させ生産を再開することができました。福島の地で操業し約70年という年月の中で、地元をはじめ関係者の皆様と築いてきた信頼関係が、迅速な復旧に繋がったのだと思います。ご支援、ご協力いただいた方々に、改めて感謝申し上げます。

また、震災を通して災害時の対応を含め“備え”の大切さ学び、分析機器等の落下防止対策や福島工場内に新たに建設したユーティリティ棟、倉庫棟等にもその経験を活かしております。これからも、震災での教訓を活かしたリスクマネジメントを行い、製薬企業の大きな使命の一つである医薬品の安定的供給に努めてまいります。

最後に、2011年3月に発生した東日本大震災から既に7年となります。復興は、一步一步着実に進んでいるものの、原発事故の収束、廃炉に向けた取組みを含めまだまだ相当な時間がかかりそうです。福島が出身基盤の当社としては、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。